

令和4年度 学校評価(12月)結果【成果と課題】について

保:保護者アンケート(網掛けは市内共通項目)、児:児童アンケート

学校教育目標	主体性を育てる ～自主・自律・共生	
めざす子ども像	「させられないで、する子ども」 ・自分の願いや目標を持ち、自分で考え、判断、行動し、多様な人々と協働しながら、自らの可能性を發揮していく児童の育成	
確かな学力	重点	■主体的な学び:「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を図る。
	アクション	①生徒指導の機能を生かした授業づくり ②ICT(タブレット)活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ③家庭学習(自学)の工夫
	根拠となる指標	
	データ分析	
	<ul style="list-style-type: none"> ・保1 授業がわかりやすい ・保2 興味を持って学習 ・保3 家庭学習の習慣 ・保4 進んで書く、話し合う ・保5 ICTの効果的活用 ・児1 学校の授業はわかりやすい ・児2 進んで書く、話し合う ・児3 進んで家庭学習 ・全国学力学習状況調査(6年生) ・学力テスト(2～5年生) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保6月との比較では、5項目全てにおいて、肯定的評価が増加している。特に、「授業がわかりやすい」では90.7%の5.8P増、「ICTの効果的活用」では82.4%の5.5P増であり、高い上昇率を示している。また、「進んで書く、話し合う」では、60.4%の3.6%増となっている。市との比較でも、共通3項目全てにおいて、平均を2～5P上回っている。特に、「興味を持って学習」と「家庭学習の習慣」で、それぞれ5P上回っている。 ・児「学校の授業はわかりやすい」の肯定的評価が、93.7%であり、0.8P増加している。一方、「進んで家庭学習」で9P、「進んで書く、話し合う」で2.6Pそれぞれ低下している。
成果(○)と課題(●)		
<p>○保、児ともに、「授業がわかりやすい」の肯定的評価が、90%以上の高水準にある。</p> <p>○「生徒指導の機能」(存在感、自己決定、共感的人間関係)を生かした「わかる授業づくり」を具現化できた。</p> <p>○「ICTの効果的活用」の肯定的評価が82.4%で5.5P増の高い上昇率を示している。各学年で、特に、学習用端末(タブレット)の効果的活用が進み、「個別最適な学び」をより充実できた。また、「協働的な学び」の学習活動においても、高学年を中心に活用を図ることができた。</p> <p>○生活科や総合的な学習の時間を中核として授業研究を進めるとともに、各教科で子どもの興味・関心に基づく問題解決過程や学び合う学習活動を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を図ることができた。</p> <p>●児では、「授業がわかりやすい」の肯定的評価が6月よりも上昇し93%を越えている。一方で6%の児童が、否定的な自己評価している。今後、さらに、特別支援教育の視点(ユニバーサルデザインの視点)を生かした「授業づくり」を進めるとともに、教科担任制(高学年)、少人数指導(習熟度別指導)、まなびくらぶの工夫を図り、個別最適な学びの充実を図っていく必要がある。</p> <p>●自分の考えを書いたり、話し合ったりする学習活動に進んで取り組めるようになってはきたが、保では、まだ60%にとどまっており、十分に定着しているとは言えない。自分の考えを積極的に表出できるよう、表現活動の充実を図っていく必要がある。</p> <p>●保では、「進んで家庭学習」の肯定的評価が78%に達しているが、児では、6月に比べ大きく低下している。半年間の成長で自己をより客観的にとらえられるようになった結果とも言えるが、今回の結果が、より児童の実態に近く、妥当性が高いとも考えられる。今後も、一人一人の家庭学習の状況を丁寧に看取って、適切な支援を講じていく必要がある。</p>		

豊かな心	重点	■認め合う仲間:自己肯定感を持ち、多様性を認め合う児童を育成する。	
	アクション	④学級経営の充実(多様性の尊重、自己肯定感の育成) ⑤道徳科を要とした道徳教育の充実(「考え、議論する」学習活動) ⑥豊かな体験活動	
		根拠となる指標	データ分析
		<ul style="list-style-type: none"> ・保6 自分からあいさつ ・保7 自分の役割に責任 ・保8 だれとでも優しく関わる ・保9 子どものことで相談 ・保10 いじめや暴力のない取組 ・保11 「あったかはあと」の育成 ・児4 学校は楽しい ・児5 自分にはよいところがある ・児6 誰に対しても優しい ・児7 自分から進んで挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・保6月との比較では、6項目のうち5項目において、肯定的評価が90%を超えており、0.2～4.8P増加している。特に、「自分の役割に責任」で4.8P増加している。一方、「だれとでも優しく関わる」では、わずかに低下している。市との比較では、「自分の役割に責任」で4P上回っている。一方、「自分からあいさつ」については、6月と同様3P下回っている。 ・児「学校が楽しい」で、92.1Pであり、6月と同水準である。しかし、「自分にはよいところがある」で6.2P、「誰に対しても優しい」で7.7P低下している。また「自分から進んで挨拶」でも、2.9P低下している。 ・保独自3項目についての無回答(わからない)の割合は、各項目とも6月よりも0.7～4.2P減少したものの、「いじめや暴力のない取組」と「あったかはあとの育成」で、依然として1割を超えている。
		成果(○)と課題(●)	
	<p>○児では「学校は楽しい」という肯定的評価が6月よりも上昇し、92.1%の高水準にある。「わかりやすい授業づくり」と「多様性を尊重し自己肯定感を育成する学級経営」の充実により、高い学校生活満足度が得られていると考えられる。</p> <p>○保では、「いじめや暴力のない取組」と「あったかはあとの育成」の肯定的評価が6月よりも上昇し、どちらも90%以上である。多様性を尊重する学級経営の充実に加え、道徳科を要とした道徳授業の充実、学校支援実践講座(5年)、人権教室(2・3年)、オレンジリボンキャンペーン(全校)などの取組により、いじめのない学校づくりを推進できた。</p> <p>○各学年で、指導者ローテーションによる道徳科授業を計画的に実施し、指導の充実を図れた。</p> <p>○保では、「子どものことで相談」の肯定的評価が6月よりも上昇し、92%を超えている。</p> <p>○with コロナの中で、感染対策を講じながら、校外学習などの学校行事や学習活動における地域人材の活用を積極的に推進し、体験活動の充実を図ることができた。</p> <p>●児では、「学校が楽しい」について、7.8%が否定的な自己評価をしている。引き続き、一人一人のニーズに応じた特別な支援の充実を図っていく必要がある。</p> <p>●保、児両方の結果から、「自分から進んで挨拶する」ことに、課題が見られる。朝会での校長の話や代表委員会の挨拶動画の取組などにより、自発的な挨拶を励行しているが、十分な成果が上がっていない。挨拶の意義や良さを子どもたちが実感を持って味わい、自分から進んで挨拶できるよう、家庭との連携を図りながら、指導を工夫していく必要がある。</p> <p>●児では、「だれとでも優しく関わる」の肯定的評価が低下している。引き続き、学級経営の充実を図るとともに、コロナ禍で実施できていなかった「異学年での交流活動」等を計画的に実施し、多様な人との豊かな関わりを体験させていく必要がある。</p> <p>●学校独自3項目についての無回答(=わからない)の割合は6月と比較して減少してはいるものの、2項目については、まだ1割以上ある。学校の取組が十分に伝わっていない状況が例年と同様にあまり改善されていない。引き続き、学校だよりやHPで保護者のニーズに応じた情報を積極的に発信していく必要がある。</p>		

重点	■健康・安全のセルフマネジメント:健康安全に関するセルフマネジメント力を育成する。	
アクション	⑦自ら運動に親しむ資質・能力の育成と体力向上(教科体育の充実、運動の日常化) ⑧健康安全教育の充実(生活習慣、食育、危険回避能力)	
根拠となる指標	データ分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・保12 進んで体を動かす ・保13 安全に気を付けて生活 ・保14 規則的な生活習慣 ・児8 進んで体を動かす ・児9 早寝・早起き ・新体力テスト(1～6年生) ・保健室利用状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・保6月との比較では、共通3項目の肯定的評価の割合は、「安全に気を付けて生活」で1.5P 増加しているものの、「進んで体を動かす」で0.3P、「規則的な生活習慣」で0.1Pそれぞれ低下している。市との比較では、「安全に気を付けて生活」で2P 上回っているが、「進んで体を動かす」では、1P 下回っている。昨年度同時期の経年比較では、「進んで体を動かす」で2P 低下している。 ・児「進んで体を動かす」の肯定的評価が66.7%にとどまっている。「早寝、早起き」については、66.7%と低いが、保では、「規則的な生活習慣」で85.7%であり、児童と保護者の認識に乖離が見られる傾向は、6月と同様である。 	
成果(○)と課題(●)		
健やかな体	<p>○体育科の校内研修を行い、運動の特性に触れながら楽しい体育授業を実施できた。</p> <p>○体育科の授業では、児童がめあてを持って運動に親しみ、達成感を味わえるよう、場の設定や学習カードの工夫・充実を図ることができた。</p> <p>○業間、昼休みには、外遊びする児童の姿も多く、教員も若手教員を中心に児童とともに外遊びをしている。また、体育育委員会を中心に「体力向上大作戦」や「二重跳びリレー大会」等に取り組み、運動への意識を高めることができた。</p> <p>○避難訓練(地震、火災、不審者)を計画的に実施し体験を重ねることで、避難の方法を実践的に学ぶことができた。また、どこに危険が潜んでいるかを含め、危険回避能力の育成に努めた。</p> <p>○毎日の給食指導に加え、総合的な学習の時間での食品ロス削減の取組や給食試食会の実施(1年生保護者)などにより、食育の推進が図れた。</p> <p>●保、児ともに、外遊びなど「進んで体を動かす」について、肯定的評価が70%台の低水準にとどまっている。学校での体力向上の取り組みにもかかわらず、「運動の日常化」までには至っていない状況が伺える。塾通いが多いことも一因ではあるが、引き続き、放課後の遊び方や休日の過ごし方も含めて、家庭と連携しながら、運動に対する児童の意識を高めていく必要がある。</p> <p>●基本的な生活習慣(早寝・早起き、朝ごはん)については、特に早寝・早起きに関して、家庭と連携しながら、児童が自らの生活態度を改善できるような手立てを講じていく必要がある。</p>	

信頼される学校づくり	重点	■寄り添う支援:子どもや保護者の思いに寄り添いながら、保護者・地域との連携を図る。	
	アクション	⑨子ども支援体制の充実・強化(子ども支援部会、ケース会議、児童アンケートなど) ⑩保護者・地域と連携した教育活動の展開(生活科、総合的な学習の時間、学校行事など) ⑪適時適切な情報発信と学校公開(各種お便り、HP、授業参観、懇談会など) ⑫学校運営協議会での教育ビジョンの共有、学校評価による学校経営改善の推進	
		根拠となる指標	データ分析
		・保15 学校経営方針の周知・啓発 ・保16 保護者・地域との連携 ・保17 保護者の思いや願いに対応 ・保18 特色ある取組 ・保19 一人一人に適切な指導支援 ・保20 安全な生活指導	・保6月との比較では、6項目のうち5項目で肯定的評価が増加している。特に、「一人一人に適切な指導支援」で 2.9P、「学校経営方針の周知・啓発」で 2.8P 増加している。また、「学校経営方針の周知・啓発」、「保護者の思いや願いに対応」、「安全な生活指導」の3項目においては、それぞれ90%を超え、高水準にある。市との比較では、共通5項目全てにおいて、1～7P 上回っている。特に、「学校経営方針の周知・啓発」「保護者の思いや願いに対応」「一人一人に適切な指導支援」で、それぞれ5P 以上上回っている。昨年度同時期の経年比較では、「安全な生活指導」の肯定的評価が4P 低下している。 ・保無回答(=わからない)の割合については、6月と比較して、「保護者の思いや願いに対応」、「一人一人に適切な指導支援」、安全な生活指導」において、それぞれ低下したものの、依然として、6項目全てで、1割以上となっている。
		成果 (○) と課題 (●)	
	<p>○子ども支援部会やケース会議を計画的に開催し、該当児童・家庭に係る情報共有と学校体制を整備しながら、児童や家庭への支援の充実を図ることができた。</p> <p>○コロナ禍の中、感染対策を適切に講じながら学校行事やOSD、OSTで保護者参観を実施できた。また、学校行事や総合的な学習の時間、生活科、などにおいて、地域学校共同活動推進員(安達さん)をはじめ、中台神輿、妙典お囃子保存会、自治会、地域商店など、地域の方々との交流を積極的に進めながら活動を実施できた。</p> <p>○「学校だより」「学年だより」「保険だより」「給食だより」「図書館だより」などにより、学校経営方針、教育活動の様子、家庭へのお願いなどを広く、周知・啓発することができた。</p> <p>○学校HPをリニューアルし、「校長室から」「おいしい給食」「学校運営協議会」などの各コーナーを新設し、1日1回以上の更新に努め、家庭や地域への情報発信を行った。</p> <p>○学校運営協議会を年間5回開催し、学校経営方針の承認をいただくとともに授業参観を実施した。また、学校の教育活動や地域の活動について、情報共有するとともに、学校経営課題について、貴重なご意見をいただき、協議ができた。</p> <p>●保では、昨年度同時期の経年比較において、「安全な生活指導」の肯定的評価が4P 低下している。避難訓練、感染防止対策、交通安全指導、ケータイ・スマホ安全教室など、児童の安全安心を確保する様々な取り組みを計画的かつ継続的に実施してきたが、今後さらに、安全安心に向けた取り組みを充実・強化していく必要がある。</p> <p>●今後、新型コロナウイルス感染状況を見定めながら、さらに、保護者や地域との連携や交流活動をより推進していく必要がある。</p> <p>●保では、全6項目について、例年同様、無回答(=わからない)の割合が10%前後ある。HPの改善や学校公開を行い、積極的に情報発信に努めてきたが、学校の取組みがまだ、十分に保護者に伝わっていない状況が伺える。さらに、情報発信の内容と方法を改善していく必要がある。</p>		